

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0160590071		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	アメニティ西岡水源池グループホーム 1階 百花		
所在地	札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号		
自己評価作成日	平成27年5月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0160590071-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度化した認知症のご利用者へのケアについて職員間で話し合いを持ち、尊厳あるケアのあり方を日々意識しながら、取り組み支援している。また不安や混乱が見られた際にも丁寧に対応し、取り除く努力を行っている。また法人の取り組みであるTQM(総合的質管理)活動を通じてご家族と信頼関係を深められるような取組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アメニティ西岡水源池グループホームは開設から11年が経過している。古さを感じさせない建物はメンテナンスや清掃が行き届いており、利用者が快適に生活できるよう配慮されている。また、開設時からの職員が4名在籍しており、利用者が入居し重度化、終末期ケアへと移行していくサイクルを経験し、利用者の生活の質の向上と、よりよいケアを目指した研鑽、資格取得の意欲も非常に高い。職員のモチベーションは高く、行事の企画提案や職員一人ひとりの得意分野を活かしたアクティビティの提供など、利用者の笑顔を引き出す工夫を行っている。職員の熱意は家族との信頼関係となり、家族と共に利用者を支えるという事業所の方針が機能している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ○ 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 アメニティ西岡水源池グループホーム 1階 百花	地域との絆を大切にしたい理念を作成している。職員のネーム裏には法人理念とグループホーム理念を記載し常時携帯している。またケアプランは理念の実践に繋がる様に具体的なケア内容を作成し記録記入など職員全員で取り組んでいる。	法人理念と事業所理念がある。事業所開設時に作った理念である「温かい笑顔でなじみのある環境を築きます」と「地域との絆を大切に自分らしく生きがいのある生活を提供致します」を生活の中で実現できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域役員の方々との密な連携を心がけ、地域の総会や地域活動(ゴミ拾い等)に毎回参加している。運動会などの行事にも積極的に参加している。ホームの行事の一つである花火大会には近所の方もお誘いし、子供達とのふれあい等ご利用者も喜ばれている。また、防災訓練にも参加して頂き、地域の方々からの協力が良い状態で得られている。	町内会に参加し、事業所主催の花火大会は回覧板で周知を行っている。畑作業の時には地域住民と挨拶を交わしている。読み聞かせのボランティアが来訪しており、事業所が開催した認知症サポーター養成講座にも参加してもらうなど、地域と共に利用者を支えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板で活動のお知らせや、ホームの様子をお知らせし、地域に情報を発信している。町内とは情報を共有することで気軽に立ち寄ってもらえる様にし、散歩の際は近隣の方と気軽に挨拶を交わすなど認知症の人を理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、ご利用者やサービスの状況を写真を用いたスライドで報告している。また、毎回テーマを決め講話を行い、医療や認知症等の話し合いや勉強会等を行っている。その後の質問や意見はその後の活動やサービス向上に反映している。	運営推進会議は定期的に行われ、事業所内に開催案内を掲示している。会議ではユニットごとに利用者の生活の様子をスライドにして、日常の状況を報告している。議事録は事業所内で閲覧することができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当に委託されている包括支援センターの職員が毎回運営推進会議に参加し、意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。また、市担当者とは電話やEメール等でその都度連絡をとっている。	区役所、地域包括支援センターと適切に連絡を取っており、書類の作成や制度の改正に対応している。利用者だけでなく地域の高齢者からの困りごとにも対応し、地域包括支援センターへつないでいる。また、キャラバンメイトとして協力も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修に毎年参加している。参加後はスタッフへの伝達講習を行ない、周知徹底している。	職員研修では虐待防止と併せて身体拘束の排除について学んでいる。現在はユニット入口にセンサーがあり、戸の開閉でチャイムが鳴るようになっており、安全の確保を行っている。	玄関は常時テンキー操作で開錠するシステムとなっている。現在は離設傾向のある利用者がおらず、職員のスキルの向上や見守り体制もあることから、玄関の施錠解除について検討していくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は毎年1回必ず勉強会を開催し、虐待についての理解を深めている。また、スタッフルームに目的や定義を貼りだし、常に日々確認しながら防止に努め、職員会議等話し合いの機会を多く設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での積極的な声掛けにて外部の研修に出席し、他職員にも伝達講習や勉強会を行い、各々が確認し合いながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、事前にホームに見学に来ていただき、ご利用者の姿や職員の様子を見て頂くことで不安や緊張をほぐし、少しでも馴染んで頂ける様に話し合いや相談に応じている。十分な説明を行ない、合意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より話やすい雰囲気作りが心がけ、ご意見箱の設置やアンケートを実施している。又スタッフ紹介、趣味のコーナーを設置しなじみの関係作り役立つよう外部者へ表せる機会を設けている。御家族来訪の際に意見を伺っている。介護計画作成時には、意見をまとめ職員間での話し合いを設け運営に反映させている。	家族は月に2回程度訪問しており、来所時に話をすることで意向を汲み取っている。家族からのねぎらいの言葉に職員はモチベーションを高めており、毎年利用者と家族、職員と一緒に食事会を行うなど、お互いに話しやすい関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を実施し、常時、意見交換できる雰囲気を作っている。その他諸問題発生時にはその都度意見交換を行い、直ぐに解決出来るよう努め、また毎月行う勉強会や職員会議でも意見や提案を積極的に行っている。	職員もコスト意識をもち、利用者の楽しみのための使い道や行事の実施など運営に関わる意見を交わしている。職員の定期面談も毎年行っており、資格取得や働き方の希望を聞き、意欲を持って働けるよう環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	協力しあい、有給公休の調整を行い、やりがいのある職場環境に努めている。さまざまな情報など職員間で共有し、法人内外の研修等の情報を伝え、意見交換することにより個々が向上心を持てるよう努めている。連携を密にし、話し合いを多く持ち状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前学んだ事でも必要性のあるものは再度学び合い、個々がスキルアップできるように積極的に法人内外の研修への参加や、日々意見やアドバイスを行っている。参加出来なかった職員へは伝達講習という形で伝え共有し職員が理解し確認しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	常に管理者からの伝達があり、情報共有の為、市内に連絡会があり交換研修や職員研修に参加して情報を得、内容については話し合いのもと、職員間でも周知している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご利用者とご家族に見学・面談を行い、求めていることを伺いご利用者と向き合うことで受け止める努力をしている。また入居前、状況によっては日中、他ご利用者と過ごす時間を設けるなどコミュニケーションを図る取り組みを行っている。不安なく生活して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問回数を増やして頂き、情報・状況を伝え、生活状況を見て頂くなど意見を伺っている。気軽に話かけやすい雰囲気を作り、またホーム長室も常時開放し相談できる環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各事業所と情報を共有し、必要なサービスがあれば相談してご利用者やご家族の要望が聞き入れられる支援の対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、日々生活を共にすることで、ご利用者の思いや変化に気付き、寄り添う中で解決できるよう努めている。またご利用者の生活歴・生活史を理解し、寄り添う介護で支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況報告を伝えながら、ご家族の不安や求めている事を、その時々と一緒に考え、支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等に気軽に来訪して頂ける様に配慮している。また居室にはご家族の写真を飾り家族との思い出など話をして頂いている。	家族や知人の訪問があり、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。利用者から行きたい場所の話題が出た場合は家族にも伝えていく。介護タクシーのパンフレットを設置し、遠方の家族が来訪した際に案内も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味等を把握し、仲の良いご利用者同士と一緒に談話やレク活動等の交流を持てるように職員が間に入り配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後でも、これまでの関係を継続できるように、いつでも相談を受け、関わりが持てる体制を整えている。退所後の様子や相談を話に来て下さるご家族もいる。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望をお聞きし、日々の関わりの中でアセスメントする事で意向の把握に努めている。また、ご家族からの情報や協力を得ながら、意向に添えるよう努めている。	入居時に家族と一緒に情報を収集し、アセスメントしている。日々の関わりの中で出た希望は趣味活動などにもつなげ利用者が主体的な活動ができるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プロフィールの中には生活歴や生活環境などご家族やご利用者から得た情報が詳しく記入されており、誰もが把握できるように努めている。またご利用者の馴染みの生活を把握し、安心して過ごせるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの一日の過ごし方を、申し送りや記録を通して職員全員の視点から総合的に把握し、介護計画に反映させより良く生活ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の生活を職員間で観察し、いろいろなケアの方法を試しながら、どのような問題があり、どのようなケアを提供したらよいか話し合っている。また、ご利用者やご家族の意見も取り入れより良く暮せるように介護計画を作成している。	3、4ヶ月ごとに介護計画を作成している。モニタリングやスタッフ会議で職員からの意見を取り入れ、担当職員が個別性を大切に計画を立案し、必要な支援について検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に、日々の状態の変化や気づき等を記載し、職員間での情報共有を徹底している。記録には介護計画の実践や結果を記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人の状況に合わせ、ご家族やご本人の要望をお聞きしている。また担当医と連携を図り、異変時等に素早く対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動(運動会・町内掃除)に参加したり、ヘアカット、読み聞かせのボランティアに毎月来て頂くなど、ご利用者に楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族と十分に話し合い、要望を聞きながら、担当医と連携を図り、適切な医療を受けて頂けるように支援している。希望時は、内科、歯科、皮膚科の訪問診療を受けられる体制を作っている。	管理者が看護師資格を持ち、24時間オンコール体制となっている。往診や受診など利用者の希望に沿って支援しており、必要に応じて管理者が受診に同行することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で日頃と少しでも違った様子がみられた際には常勤の看護職員に直ぐに報告、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関と相談、報告等を行い、ご利用者が安心して治療が受けれるように努めている。また早期に退院できるよう、情報を共有し連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意思を尊重できるように、担当医とも話し合いを重ねている。職員は終末期に向けた勉強を行いながら方針を共有し、支援に取り組めるように努めている。	運営年数が長く利用者の重度化と看取りのサイクルを経験しており、看護師の管理者とともに医療との協力関係を構築している。入居時に説明し同意を得ており、利用者と家族との時間を大切にしたい穏やかな終末期を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時及び事故発生時のマニュアルを作成している。消防署に協力を得ながら救命講習を受け、勉強を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。日中、夜間帯を想定し避難訓練を年2回実施している。その時には町内の方々にも参加協力を得て頂いている。避難時の防災グッズを用意している。	避難訓練は年2回実施し、日中想定の場合は敷地内にある同法人のデイサービスと合同で行っている。夜間想定の場合は町内会にも入ってもらい、申し合わせを行っている。非常災害時備蓄も備えている。	火災の他に地震や停電などの災害も想定し備えを進めている。しかし、ユニットにより重度化や車いす使用者が過半数を占めるなど避難に課題が残るため、引き続き災害対策を行っていくことが期待される。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年接遇委員より研修会が実施されており、参加して勉強をおこなっている。日々の言葉掛けや対応には職員一人一人が心掛けケアに努めている。	接遇委員が1名おり、法人の委員会に参加している。委員会の議事録を毎月職員間で回覧し、年1回はマナーの基本をロールプレイで実習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、ご利用者の言葉や表情や態度で思いを感じ、意思を尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースを大切にして声掛けを行い、ご本人が何をしたいか、その他の精神状態にも配慮しケアに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来ないご利用者には、ご本人のイメージや表情等をくみ取り身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人やご家族に好物をお聞きしながらメニューにつなげられる様にしている。メニュー変更、新メニュー検討などにも力を入れている	食事が日々の楽しみであることを家族にも説明している。基本的に利用者が食べたい献立をその時々でユニットごとに工夫して調理し、食欲の増進に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて食事の携帯やメニューを変更し一人一人の食事、水分量を把握出来る様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科の診療を受けて、日々毎食後に口腔ケアを行い状態観察をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンやサインを読み取りさり気なく声掛けしトイレ誘導を行っている	排泄リズムを医師に伝え、下剤服用のタイミングの調整を行っている。起床時の便失禁をなくすよう職員と共に取り組んでおり、利用者が清潔で快適に過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表などをもちいて職員間で情報共有して便秘予防に努めている。やむ終えない場合も医師の指示で下剤を内服し調整を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日の設定はあるが、入浴拒否などがみられた時は無理強いをせずに違う日に変えるなどの個人の意思を尊重している。また入浴中はコミュニケーションを図りながら気持ちよく入浴して頂ける様に支援している。	利用者ごとに週2回程度、入浴日を決めずに支援している。今年度シャワーキャリーを導入するに当たり様々な機種を利用者と試し、安全で使い勝手の良いものを選定している。入浴時の同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方や長時間の座位保持が困難なご利用者には、日中も数時間、臥床して頂くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるよう個々にファイルしており薬の副作用を記したのも作成している。また、薬の管理を行う担当者を決め飲み忘れや誤薬のないよう整理し保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、個々の生活歴を十分に把握し、ご利用者の役割や楽しみごとをケアプランに取り入れ、ケアに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を立案し、ご家族の協力を得ながらなるべく外出の機会を持てるようにしている。またお天気の良い日は近くを散歩したり、地域の方々と交流をして、気分転換を図るよう支援している。	事業所周辺への外出を日常的に行い、散歩や畑での作業なども体調に配慮しながら行っている。町内の運動会参加や家族とともに出かける食事会、買い物など事業所外との交流の機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談して了承を頂き、ご自分で管理出来る方には少額でも所持出来る様に支援しご自分で管理できない方はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望を優先しご家族に協力して頂きながら電話や手紙のやり取りを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けをしたり、行事参加の写真に手を加えご利用者やご家族が楽しめるようにしている。	食堂、居間、ホールなど、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。季節の飾りつけがあり、温かい雰囲気となっている。今年度AEDが設置されており、職員が研修を受け、利用者の緊急時にも対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者のレベルの低下に伴い、一人一人の状態にあった居場所作りの工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は、ご本人の馴染みのある物を持って来て頂き、危険が無い様にご家族と相談している。また居室の壁に行事や誕生会などの写真や寝たきりの方には手作りの折り紙やご家族の写真を貼ったりし、居心地よく過ごせる様工夫している。	居室にはクローゼットが造りつけとなっている。入居時から家族とともに利用者を支える姿勢を伝えており、家族は月2回程度訪問し、職員と相談しながら利用者の居室を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を見極め、ご自分でできることは声掛けや見守りで行って頂いている。また出来る方には台所や洗濯物たたみなどのお手伝いを行って頂いている		